

没後3年 マクリヒロゲル、栗津潔の世界

連続トーク 3



「写真と言葉 ひとりずつで立ち上がるために」

竹内万里子 (批評家) × 新井卓 (写真家)

7月14日(土) 17:00~18:30 参加費 1,000円 (1drink) 会場: ヒルサイドフォーラム

1950~60年代、東松照明や土門拳らの写真家たちと反戦・反核の仕事をもにした栗津潔は、その後も市井に生きる個人として社会に関わり、「巷の絵師」というスタンスを生涯貫いて表現活動をしてきた。さまざまなクライシスに直面している21世紀の現在、栗津潔らの仕事をどのように捉えかえすことができるのか。そして、時代の「今」を写しとる表現は、どこに向かおうとしているのか。

写真と言葉、手段は違えども「今」と対峙することを行動の原点とすることで共通するふたりの表現者が、同時代の問題と写真について話し合う。

竹内万里子 (たけうちまりこ) 写真批評家 1972年東京生まれ。「アサヒカメラ」「スタジオボイス」「美術手帖」など、国内外の雑誌・新聞に写真評論を多数寄稿。2008年フルブライト奨学金を受け渡米、同年「パリオフト」日本特集のゲストキュレーターを務めた。現在、京都造形芸術大学准教授。共著・訳書に『日本の写真家101』(新書館)、『森山大道、写真を語る』(青弓社)、『ルワンダ ジェノサイドから生まれて』(赤々舎)など。
新井卓 (あらいたかし) 写真家 1978年川崎生まれ。横浜を拠点に、国内外の美術館、大学、NPOなどと連携して多彩な活動を展開。写真黎明期の技法・ダゲレオタイプ(銀板写真)を独自に習得し作品制作に用いる。主な個展に「鏡ごしのランデヴー」(横浜美術館、2006年)、「夜々の鏡」(川崎市民ミュージアム、2011年)、グループ展に「写真の現在4 そのときの光、そのさきの風」(東京国立近代美術館、開催中)など。

記念コンサート

「マクリヒロゲル箏 沢井一恵」

出演: 沢井一恵 (箏弾き)、長谷川将也 (尺八吹き)

7月14日(土) 19:00~20:30 会場: ヒルサイドフォーラム (代官山・ヒルサイドテラスF棟)

入場料 3,000円 (カタログ『栗津潔、マクリヒロゲル』を予約購入された方は500円割引)



「1981年“NOH”米国公演ポスターで栗津氏の作品に初めて出会った。その能面の碧色で穿たれた右眼の中の真紅の四角い瞳。めらめらとふき出てくる炎が私につきささって以来、「ほのおの真紅」として栗津氏を認識してしまった」(沢井一恵)以後、自身が脱皮し、世界に飛躍していく節目のコンサートでは、栗津潔にポスターを頼み、その画像に鼓舞されてきたと語る沢井一恵。邂逅から30年の時をへて、壁面にマクリヒロゲられた栗津潔の作品と、一面の箏をたずさえ、ひとりの尺八吹きとともに対峙する。時空を超えた魂の共振、栗津潔の世界へのオマージュ、そして新しい世代へのメッセージ。

沢井一恵 (さわいかずえ) 箏奏者。8才より箏曲を宮城道雄に師事。東京芸術大学音楽学部卒業。1979年沢井忠夫と共に沢井箏曲院を設立。現代邦楽の第一線で活躍する一方、全国縦断「箏遊行」や作曲家の一柳慧、パーカッションの吉原すみれと「トライアングル・ミュージック・ツアー」を結成するなど日本各地で70回のコンサートを敢行。高橋鮎生、太田裕美、ピーター・ハルミらの、参加アルバム制作。89年以降、世界各地より招聘を受け、KAZUE SAWAI KOTO ENSEMBLEでさまざまな音楽シーンに登場。国内外のさまざまなジャンルの若手アーティストたちと「沢井一恵 箏360°の眼差し」などで実験的コンサートをおこなう。

ご予約は現代企画室 (gendai@jca.apc.org / tel. 03-3461-5082) もしくは本展覧会受付まで!